達人リコメンドの四国～平成から令和へ

1. 四国斜め走り

毎年恒例のGW四国ツアーですが、2019年は旅の途中で年号が変わるという時代を越えたおめでたい行程になりました。昭和から平成の暗いムードに反して、平成から令和は、明るいムードですから、好きな場所をわがままに辿ることにしました。

スタートは、瀬戸大橋から伊予西条へ。四国で一番眺望の美しい道、瓶ケ森林道を爽快に走り抜けることから始めます。最近、クルマのCMで放映された通称「UFOライン」ってやつで、菅田将暉＆中条あやみのように「風になり～たい」なんて歌いながら石鎚を目指す予定でしたが、山の天気はわかりませんね。当初より、4月29日は雨の予報で、しかも当日は愛媛の上空は一面の雲、けど四国最高峰の石鎚付近が晴れることに望みを乗せて、加茂川を横目に194号を進んで寒風山トンネルを抜けると霧雨。山の天気はわからないので旧194号、瓶ケ森林道と進めば晴天。ではなくて、霧で先が見えません。眺望どころか対向車さえ見えない美しい道は、課せられた修行のようです。付近には残雪が残り、よさこい峠で道を間違えて、石鎚登山口に行くはずが、高知側に降りてしまい険しい山道を戻る羽目に。気を取り直して石鎚神社土小屋遥拝殿参拝、道中の安全を祈願して面河方面に駒を進めます。

面河川を遡上、御三戸から33号、440号を経由して地芳トンネルから梼原を目指します。途中発見したのが、バス停の「合格駅」・・縁起が良いので写真撮影。元々は国鉄バスの「郷角（ごうかく）駅」だったのですが、合格切符など発売するために、改姓したようですね。続いて、坂本龍馬脱藩の道を売りにする梼原へ。歴史民俗資料館から三嶋神社、維新の門など巡ります。個人的には、三嶋神社の屋根付きの神幸橋がお気に入りで、郷土芸能の、津野山神楽に興味を持ちました。

雨降る中、梼原から鬼北を経由して宇和島を目指して斜め走り。というか、四国を斜めに抜けて無事、宇和島のお宿に到達、ああしんど。

2. 終着駅散策

宇和島の夕食は、牛鬼さんの木工人形が見守ってくれました。亀の手、フクメン、フカの酢味噌和えから、地魚のお刺身、サザエのつぼ焼き、鯛の煮つけ、伊予牛のステーキ、宇和島鯛めし、などなど。朝食には、じゃこ天も登場。南予オールスターズの食材でお接待いただいた気分です。JR四国・予讃線の終着駅の宇和島観光と言えば、宇和島城

と和霊神社、闘牛あたりが主流ですが、今回は近年橋が開通して陸続きになった九島（くしま）を訪問しました。「海すずめ」なる映画の舞台となって脚光を浴びたかどうか知りませんが、クルマじゃなく自転車でゆっくり一周してみたい素敵な小島です。

九島大橋を渡って周回道路を北回り、まずは鯨大師に向かいます。鯨のモニュメントがあるとか期待して登ったのですが、弘法大師が開いた落ち着いたムードのお寺で、映画でも主人公のオアシスとして位置づけられたそうです。車両進入禁止地点から引き返して南回り、島の中心部の百之浦港へ。津波避難場所の看板の先には急な石段を発見。白王神社と浄楽寺に登って漁港を眺める。九島大橋まで戻って海すずめ展望所より四国本土を望みます。風光明媚でのどかな島に感動です。

続いての散策は宿毛、高知回りの土讃線の終着駅です。だるま夕日が見れる場所で、近年ダイビングスポットとして脚光を浴びた柏島への玄関口でもあります。お仕事含めて長年に渡り四国と向き合ってきた私ですが、中村起点で周辺を観光しても、宿毛だけはゆっくりと歩いた記憶がありません。今回は、龍馬パスポートのスタンプが押せるスポットとして宿毛歴史資料館に入場しました。入場すると、ボランティアガイドの方が熱心に土地のこと、歴史のこと、出身人物のことを説明してくれて、変に興味を持つことになりました。実の父親が宿毛出身の、吉田茂内閣総理大臣のこと、北海道開発の父・岩村通俊の功績と兄弟の話、政治家・林有造の邸宅がリニューアルしたから見学して欲しいなんて言われて、小さな街を満喫しました。高知県は、観光産業に力を入れてるだけあって、道案内だけでなくボランティアガイドも充実していますね。

3. 太平洋に沿って（前半）

平成最終日（4月30日）のランチは道の駅「みしょうMIC」で購入した、きびなご寿司と牡蠣入り筍ご飯、１枚43円のじゃこ天をセレクト。このじゃこ天、コスパ最高、サイズは小さめですが独特のジャリジャリ感がたまりません。先客のじいちゃんが買い占めたあと、トレーに残っていた5枚のうち４枚を購入しましたが、人気商品でしょう。宇和島の道の駅「きさいや広場」の１枚相当の価格ですもんね。

太平洋に沿って、宿毛、大月、竜串と進んで今宵のお食事は、脂がのった清水鯖。3年連続で訪問しましたが、平成最後を飾るディナーは、民宿「いさり火」で、清水鯖のお刺身と、脂の乗ったブリの塩焼きで大満足です。翌朝は、鯖の塩焼きと土佐ジローくんの卵で、めでたく令和初日を祝福です。

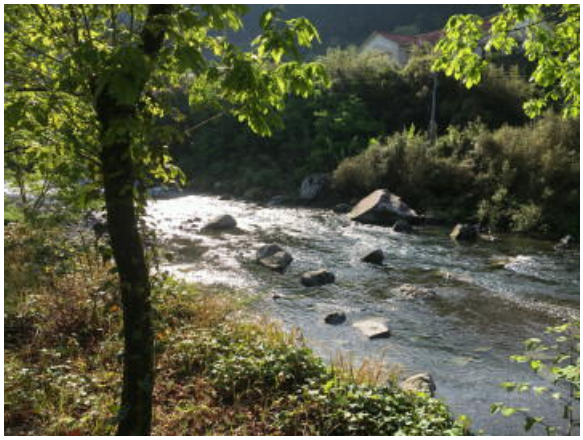
中村、土佐佐賀と進んで、あぐり窪川でお土産の仁井田米を購入して、高速道路に入ります。伊野では、紙の博物館に寄って紙漉き体験。

もう一度高速に乗って南国、赤岡を目指します。赤岡と言えば、どろめ祭りと絵金。いえいえ、目的地は「とさを」・・・和風だしに中華麺の「中日そば」を食べなくては。しかも、名物のシラス丼とにら餃子も添えると満腹に。ほんと、美味しい高知が大好きです。

あとは、安芸で野良時計と資料館2つ見学して、安田から柚子の国、馬路に向かいます。

4. りんてつトライアングル

令和初日から2日間は、馬路温泉に宿泊です。特別村民として、前の村長と「ごっくん馬路村」片手に記念撮影しましたし、主催するバドミントンの大会で、テーマを「ごっくん」として、参加賞として全員に「ごっくん馬路村」を配った経験もあります。訪問するのもなんと4回目で、高知で一番のお気に入りの場所です。お部屋もロフト付き、連続で宿泊すると、夕食の献立が変りますし、安田川の流れる音を聞いて、夜は星空観測に。

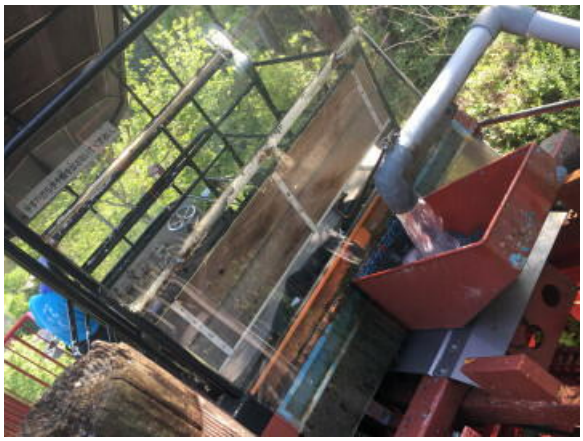


ただ、これだけ訪問したら観光する場所が思い当たりません。今回もまずは魚梁瀬へ。ダム湖を展望し、森林鉄道に乗車というルーティン。ここで、ボランティアガイドのお兄さんから耳より情報。魚梁瀬森林鉄道の遺構観光を勧めていて、北川温泉の前にある人と軽自動車しか渡れない小島橋を体験して、奈半利川線の構造物をたどるコースを提示、お気に入りのガイドマップを手渡してくれました。新しいマップよりも古いマップが、完成度が高いので手元に集めて、お配りしているそうで、私もかつて、このマップを持って安田川線の遺構巡りをした経験がありますから、森林鉄道について、熱く語ってくれました。魚梁瀬から奈半利川に沿って二又へ、遺構を巡りながら北川村を進みます。

北川村と言えば、モネの庭が有名ですが、今回の観光は中岡慎太郎館へ。坂本龍馬と共に近江屋で命を落とした日本の志士で、北川村出身の神童です。この日が、この旅一番の晴天で、室内の資料館より銅像や生家の写真が美しく撮影できました。

奈半利川に沿って493号線を南進、55号から田野の藩主の宿泊所で書院造りの建物、岡御殿を覗きます。田野から安田、再び馬路村に向かいます。

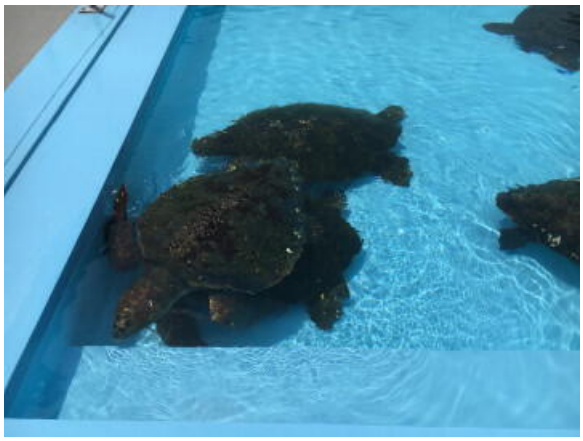
さてさて、馬路村ふるさとセンターの「まかいちょって家」でショッピング。ポン酢（1000人の村）にドリンク（ごっくん馬路村）にシャンプー・ボディソープと柚子製品を買い求めていると、スタッフのお姉さんが「バドミントン続けているのですか？」なんて声をかけてくれました。はい、2年前に訪問した時のことと、バドミントン大会で村をPRしたことを覚えてくれていたのです。当時の村長おススメの朝日出山の大杉の地図を貰ったのは良いけど、現地の状況が変わっていて登り口がわかりにくいので、目的地を目指す私たちのクルマを追いかけてきて説明を加えてくれました。その時も感激しましたが、今回も感動。風景、温泉、柚子だけでなく、住んでいる人も素敵な馬路村です。



残り時間は、森林鉄道とインクラインに乗って、夕食、温泉と馬路村最後の夜を満喫しました。

5. 太平洋に沿って（後半）～フィナーレ

馬路温泉を後にして、安田、奈半利、吉良川、室戸と55号線を進みます。室戸では、最近開設したむろと廃校水族館へ。この施設は、廃校した椎名小学校を改修、理科実験室など使えるものは再利用して、教室や廊下を展示コーナー、プールを水槽にして近海のお魚を展示というか泳がせています。ウミガメにシュモクザメ、背中のブルーが美しいサバ、羽根を広げたホウボウなど、「ここは大きな生け簀か～い！」なんて突っ込みたくなりますが、日々展示が進化していくようで、これからに期待ですね。



ジオパークの室戸から佐喜浜、野根、生見海岸、甲浦、宍喰、海部、海南、鯖瀬、牟岐、日和佐で一息、一気に徳島まで太平洋に沿って走りました。

さて徳島。踊るアホウに見るアホウ、同じアホなら踊らにゃソンソン！エライやっちゃヨイヨイよいよ～い！

旅のフィナーレは、昭和の最後の時期を高松で共に過ごした友人と再会です。青春時代というか、あの頃は、時代が私たちを追いかけてくる感覚で、飲み歩いていた訳じゃないけど、夜遅くまで遊んでいました。平成を超えて令和、お互い30年の月日を過ごして、きっと成長しているはずですが、新しい仲間も含めて、徳島の夜はフィーバーです。

フィーバー？そんな表現は、ナウなヤングが使うトレンディーな言葉じゃないですか？盛り上がった結果、ホテルに帰ったのは12時過ぎ。1時の門限に間に合ったので良しとしましょう。

翌日は、徳島城の庭園を歩いて、おまけに川島城までお付き合いいただきました。川島城の天守閣は、レストランとして再建、展望台として残していたのですが、現在は休業中。小さいけど、写真写りも良くて美人と表現するのが適しているかもです。また、そばにある川島神社で道中の安全祈願、小山に配置するミニ四国88ケ所を参拝というか、蜘蛛

の巣を払いに歩いたという表現が正しいかも。そして、奥の展望台に。四国三郎とも呼ばれる吉野川の雄大な流れが一望できます。ゆったりとカーブして流れる上流側、下流側には沈下橋（川島潜水橋）が見えます。192kmの道のりをたどる吉野川で、この場所が最も眺望の美しいポイントかも知れません。ご案内いただいた古き友人に感謝です。

最後は、徳島県でありながら、麺のモチモチ感、ぶっかけ出汁、トッピングのネギとワカメ、天ぷらの種類、コスパのどれをとっても最高の評価を付けたい「うどんのふじい」で大団円。

平成から令和の旅は、昭和の友の協力もありまして、最高の毎日になりました。さてさて、来年はどうしましょ？

令和元年5月11日記

トップへ　戻る